月例研修会
伊吹山の高山植物観察と醒井散策・レポ

戸田 博子

８月１日暑さ最高の時に、涼しさを期待して、お花が最盛期の伊吹山と醒井宿の梅花藻を見に28名でデラックス・バスに乗り出発しました。

平日なので、京滋バイパス・名神高速はトラックで混んでいましたが、関ヶ原インターで降りてからは順調に進み、伊吹山頂上駐車場にはほぼ予定通り到着しました。

頂上を目指して１kmの西登山道へ鹿よけフェンスの扉をくぐりました。固有種の植物を守るため、柵が張り巡らされた道です。個人的に40年前に初めて伊吹山に登った時は、柵などありませんでした。伊吹山は霧や雨がおおく眺望が難しい山でしたが、今回は若狭から琵琶湖・比良山系がとてもよく見えました。

登山道中ほどから**ルリトラノオ・クガイソウ**の紫が鮮やか、固有種の**イブキトラオノオ**の白も風に揺れていました。そしてピンクの**シモツケソウ**の大群落はさすがにきれいでした。

写真も撮り、足元注意も大事、メンバーの姿も探したりと忙しく歩き、息もあがってきたころ、頂上の小屋に着きました。12時にはほぼ全員到着しました。ここでは**イブキジャコウソウ**が群生していました。

イブキジャコウソウ

メンバー各自お昼ご飯を楽しみ、ビール飲む人あり、カキ氷を頼む人ありと自由な時間です。

下山も自由で、短い0.5㎞の中央道、距離1.5㎞の東登山道と各自のペースで降りました。

伊吹山の空気を堪能した後、今日の二つ目のお楽しみ米原市の醒井宿に向かいました。醒井宿は中山道61番目の宿場町で、地蔵川に沿って町が作られ、歴史的な背景や古くからの宿場の町並みが遺されていることから、日本遺産にも指定されています。

この川にキンポウゲ科の梅花藻の花が最盛期を迎えています。涼しげに水の流れに揺れるたくさんの白い花が咲いてしばし暑さを忘れました。

また、梅花藻を産卵場所とする絶滅危惧種の淡水魚ハリヨが生息しています。今日の月例研修会は、絶滅危惧種を求めて山・川と巡り、勉強しました。

最後バスの中で、お世話役の小島さんより「頭の体操」クイズが始まりました。

難解「四字熟語」で頭を柔軟にすることと、知識を必要とするクイズです。

暑くても、楽しい一日でした。